



## 私のキノコワールド

高間 祥子

### ◆「菌類」との出会い

17年前、シニア自然大学校星組9期を修了した。式後の打ち上げで新しい企画(マイスターや自然塾など)を立ち上げようという声がかかる。意欲的な人が多かったのだ。

さて、私は今後どうしようか?心身共にヘトヘトになった1年間だった。月1回だけなら家族の冷たい視線をかわせるかもしれない。同期が立ち上げる「菌類研究会」しかないか。

これが私と「菌類」の出会いだった。キノコには興味なかったが、木々の間を歩いてキノコを探すのは楽しかった。

### ◆幻のイカタケ

1年目の堺、大泉緑地の観察会でのこと。休日の家族連れが憩う中で、キツネノロウソクなどを夢中になって探す。そんな時にイカタケと出会った。菌輪(フェアリーリング)を作ったたくさん出ている。変な形の臭いキノコで特にありがたくもなかったが、あれから十数年、どこを探しても見つからず、今や伝説となっている。



### ◆ベニテングタケに会いたい

「不思議の国のアリス」の絵本に出て来るような、赤地に白い点々のあるカサを持つドクキノコである。白樺林にしか生えない。当然、近隣では見られない。それならと信州合宿に行く。地元の方にとっては、どこにでも出るキノコらしいが、全く見つからない。バスの運転手さん



にあちこち回ってもらったあげく、車窓から「見つけた!」の声に歓喜。慌ててバスからか

け降りて、一人は骨折した。キノコだけを見て走り寄り、溝に足を取られて転んで骨折というのは「キノコ好きあるある」だ。

### ◆冬虫夏草を探して



広島から講師の先生を招いて大山でも合宿をした。冬虫夏草は、土中の昆虫やクモに寄生して地上

に顔を出すキノコで、大体とても小さい。そこで、探すには匍匐(ほふく)前進となる。中高年男女の集団がはいずっている姿はかなり怪しいが、やってみるとなかなか楽しく、数ミリのキノコを見つけた時の喜びは半端でない。

### ◆愛しのカエнтаケ

猛毒のキノコである。食べるのはもちろん、触っただけでも死ぬという。近寄って胞子を吸い込んだだけ



で病気になるとか。ナラ枯れの切り株等から発生する。そして、ナラ枯れが一段落するとなくなってしまう。そう、そろそろ幻のキノコになってしまうはずである。まだ見たことのない方は、是非、鮮やかな朱色の可愛らしい姿を一目、見ておいていただきたい。

### ◆そして、ならやまで

観察会を楽しむことだけに徹し、10年余り。新しく入会するのは勿論、キノコに関心がある人ばかりで、情けないがどんどん追い越されていった。仕事を早期退職してからは、他の観察会にも顔を出すようにしたが、場所や時期が違うと同じ種でも全く見かけが違ってしまうので、まだまだ初心者と変わらない。

だが、ならやまというフィールドを得て、決まった場所を定期的に観察できるのはとても嬉しい。同じパトロール班には、食べられるキノコの達人もおられるし、ユートピアでの植菌も勉強になる。ならやまで学んでレベルアップした姿を見せるためにも、ならやまの活動を続けていきたいと思っている。